

基準4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像及び入学者選抜の基本方針などの入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、公表、周知されているか。

【観点到係る状況】

本学の入学者受入方針は資料4-1-①-Aに示すとおりであり、各学部の入学者受入方針も、それぞれ定めている（別添資料4-1-①-1）。

入学者受入方針に合致する入学者選抜の方針として、資料4-1-①-Bに示すとおり「一般選抜」と「広島大学A0選抜」の2つに整理し、学部ごとに実施する内容を定めている。

学部の入学者受入方針及び受入方針に合致する入学者選抜の方針は、大学案内（別添資料1-2-①-3）、入学者選抜に関する要項（別添資料4-1-①-1）、各種学生募集要項（別添資料4-1-①-2～5）及び各学部ウェブページ等で公表し、さらに、資料4-1-①-Cに示すとおり各関係機関へ資料を配付している。A0選抜に関しては、各種学生募集要項（別添資料4-1-①-3～5）に示すように、この選抜方法に即した形で、求める学生像を別個に提示している。

大学院の入学者受入方針は、それぞれの教育目的を踏まえて、資料4-1-①-Dに示すとおり全研究科において定めている。また、入学者受入方針に合致する入学者選抜の方針はそれぞれの研究科で定め、学生募集要項、大学院案内（別添資料4-1-①-6）、研究科ウェブページ等で資料4-1-①-Eに示すとおり公表し周知するとともに、資料4-1-①-Fに示すとおり、関係機関へも入学者受入方針の記載された資料を配布している。

資料4-1-①-A 広島大学の入学者受入方針

広島大学のアドミッション・ポリシー

広島大学は、挑戦する意欲を持ち、行動を起こす人材を育てます。
また、自ら考え、判断し、表現することができる創造性豊かな人材の育成に努めます。
広島大学は、次のような人の入学を期待しています。

- 豊かな心を持ち平和に貢献したいと願う人
- 知の探求・創造・発展に意欲のある人
- 専門知識・技術を身につけ、社会の発展に貢献したい人
- 多様な文化・価値観を学び、地域・国際社会で活躍したい人

各学部・学科等では、それぞれの教育目的・目標に沿ったアドミッション・ポリシーを明示して、個性を尊重する多様な選抜を実施しています。

広島大学は、このようにして受け入れた人たちと共に「世界トップレベルの特色ある総合研究大学」を目指します。

(出典：本学ウェブページ http://home.hiroshima-u.ac.jp/admicen/nyusi/h20nyusi/admission_policy.htm)

資料4-1-①-B 入学者受入方針に合致する入学者選抜の方針

広島大学の入学者選抜について

1. 広島大学と広島大学入学者選抜の特色

広島大学は、11の学部と12の大学院研究科を擁する総合研究大学です。総合研究大学とは、全領域にわたる学部教育の体制が整えられていること、大学院教育が充実していること、優れた研究業績が数多く見られることなど、教育・研究の拠点性を有する大学を指します。本学は、広島大学のアドミッション・ポリシー（1ページ参照）に掲げるように「世界トップレベルの特色のある総合研究大学」をめざして、各大学院研究科・学部等がそれぞれの領域の教育・研究の充実を図っています。

こうした目標に沿って各学部・学科等では、それぞれの教育目的・目標を踏まえたアドミッション・ポリシーを明示して、個性を尊重する多様な選抜を実施しています。本学の入学者選抜の形態について見ると、これまで、一般選抜の他に、推薦入学、AO入試、特別選抜等、多くの種類があり、また、それぞれが独自の選抜内容で行われていました。

平成18年度入学者選抜から、これらの選抜を「一般選抜」と「広島大学AO選抜」の二つに整理するとともに、個々の選抜について分かりやすく特色のあるものにするよう努めています。

(注) 国の緊急医師確保対策に基づき、平成21年度入学者選抜から「一般選抜」「広島大学AO選抜」とは別に、「医学部医学科推薦入学「ふるさと枠」」を実施する予定です。

一般選抜	前 期 日 程	
	後 期 日 程	
広島大学AO選抜	総合評価方式	I 型
		II 型
		III 型
	対象別評価方式	帰国生選抜
社会人選抜		
フェニックス方式		
(注) 医学部医学科推薦入学「ふるさと枠」		

2. 一般選抜

一般選抜の特色は、各学科等が大学教育を行う上で必要となる学力に関連して、主に高等学校等で培われる教科・科目の学力を受験生がどれだけ身につけているか測ろうとするものです。そのため、一般選抜は、ペーパーテスト方式の試験を中心とし、主に大学入試センター試験と個別学力検査の両方を用いて合否の判定を行います。なお、後期日程では、募集単位によっては、面接を実施するところもあります。

一般選抜は、前期日程及び後期日程の二つの日程で選抜が行われますが、両方の日程を合わせると、募集人員が入学定員の約86%を占める選抜です。一般選抜と広島大学AO選抜との募集人員の割合は、今後ほぼ同じ比率とする考えでいます。

3. 広島大学AO選抜

広島大学AO選抜には、総合評価方式、対象別評価方式及びフェニックス方式の3方式があります。総合評価方式は、受験生が志望する学科等に対して抱いている関心の深さや広島大学で学びたいという意欲を重視して評価するものであり、小論文、筆記試験、面接、出願書類、プレゼンテーション等を組み合わせたきめ細かな選抜を行います。一方、広島大学で学んで行くためには基礎的な学力が必要であることは言うまでもないことですので、小論文、面接等、さらには大学入試センター試験を利用して、基礎学力の評価を行います。

また、広島大学は、海外で修学した経験のある人、社会で幅広い経験を積んだ人など、様々なキャリアを持つ人たちに対して学修機会を提供しようとしています。そのために、対象別評価方式では、出願資格を帰国生及び社会人に限定してそれぞれ募集人員を設け、小論文や面接等を利用して選抜を行います。

生涯のうちの望む時期に大学での学修の機会が得られることは、生涯学習社会において大学に対して期待されることの一つです。本学は、他の国立大学に先駆けて、平成13年度からフェニックス入学制度を実施し、中高年者の大学教育に対するニーズに応えてきました。平成18年度入学者選抜からは、広島大学AO選抜のフェニックス方式によって、従来のフェニックス入学制度を継承しています。

(出典：入学者選抜に関する要項)

資料4-1-①-C 入学者受入方針を記載した書類の配布状況（平成20年度実績）

区 分	入 学 者 選 抜 要 項	一 般 募 集 要 項	AO 入 試 募 集 要 項 (総合評価方式)	AO 入 試 募 集 要 項 (対象別評価方式)	AO 入 試 募 集 要 項 (フェニックス方式)	大 学 案 内
個人配布 (テレメール)	1,194	17,245	1,260	130	54	16,000
各国立大学	82	81	82	82	82	
各国立大学附属高等学校		62	63	63	63	
各都道府県知事	47	47	1	1	1	
各都道府県教育委員会	47	47	3	3	3	
各政令指定都市教育委員会	15	17	1	1	1	
広島県内高等学校	160	157	160	160		3,000
広島県外高等学校	6,053		1,590	1,590		
中国地区塾・予備校	86					1,000
オープンキャンパス	10,940					
大学説明会・進路相談会			2,053	100	50	9,000
個人配布 (郵送・窓口)	7,600	6,000	2,500	300	200	3,000
計	26,224	23,575	7,713	2,430	454	32,000

(出典：大学での集計)

資料4-1-①-D 各研究科の入学者受入方針

研究科名	入学者受入方針
総合科学研究科	<p>文系理系の枠組みや狭い研究分野にとらわれず、新しい学問に触れ、新しい学問を創造したいと思う学生</p> <p>現実に関心がある複雑な世界の諸相を直視し、そこに課題を発見し、その背景を理解し、課題解決への道を明らかにしたいと思う学生</p> <p>境界を越えて、異質な価値を理解し自分の意見を表明する能力を身につけたいと考えている学生</p>
文学研究科	<p>人文科学の伝統的学問分野をふまえ、人間およびその文化について深く考究するとともに、人類社会の発展に寄与することができる人物</p>
教育学研究科	<p>教育学研究科にはさまざまな専攻がありますが、それぞれの学問分野に強い関心を持ち、理論的・実践的研究に意欲的に取り組む人材を、学部卒業生から社会人まで幅広く求めます。</p> <p>学習科学専攻では、人間の証である学習の営みを、生涯発達の見点を踏まえて、学問的・科学的に深く究明しようとする意欲と情熱にみちた学生の入学を期待しています。</p> <p>特別支援教育学専攻では、1. 障害児教育に対する深い理解をもち、2. 障害児に対して一人の人間としての尊厳を認め、3. 幅広い豊かな人間性をもち、4. 勉学研究に意欲のある人を求めています。</p> <p>科学文化教育専攻では、自然科学(理科、数学、技術・情報)、人文・社会科学の教育的意義や学問的真理に対する強い探求心にあふれ、教育学、教育方法学、教育内容学を積極的に学ぼうとする学生を幅広く求めています。</p> <p>言語文化教育専攻では、言語と文化に関心を持ち、言語文化の教育と研究の開発・改善に係わる積極的な意志のある学生を求めています。</p> <p>生涯活動教育学専攻では、生涯にわたる人間の諸活動を豊かにするための教育・学習方法等の開発や改善に係わる高度な研究と専門性を追求する学生を求めています。</p> <p>教育学専攻では、教育学の専門的な知識と研究のスキルを修得し国際的レベルで研究活動を展開しようとする人、学校・教育行政フィールドでマネジメント・リーダーとして高度な職能を発揮しようとする意欲のある人を求めています。</p> <p>心理学専攻では、現代社会における人間の「こころ」の問題に積極的に関心を持ち、人間の行動と心理過程に関わる高度な研究と専門性を追求する学生を幅広く求めています。</p> <p>高等教育開発専攻では、大学教育のあり方や大学改革に関心をもち、「大学」の研究に意欲のある人を広く求めています。</p>
社会科学研究科	<p>歴史と社会問題への関心が高く、知的好奇心に溢れ、地道な努力をいとわない者</p> <p>また有職者にあつては、職場において直面している懸案を科学の眼で再度、分析・検討を加えてみようという志を抱いている者。そういう人たちを、本研究科は歓迎したいと考えています。</p>
理学研究科	<p>自然の真理に対する探求心にあふれ、自発的・積極的・創造的に研究に取り組むことのできる意欲ある人で、必要な基礎学力を有している人</p> <p>現代科学の基盤となる基礎科学を担い、次代の基礎科学のフロンティアを切り開く実力を持った研究者及び高度の専門的知識と技能を身につけて社会で活躍することをめざす人</p>
先端物質科学研究科	<p>十分な基礎学力を有し、本研究科の教育と研究に強い興味と学習意欲をもつ、次のような人の入学を期待しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工を融合した新しい科学技術分野に挑戦する意欲に燃え、新領域における研究者や高度専門技術者を目指す人。 ・理学系、工学系を問わず専門分野での研究者・技術者を目指す人。 ・出身大学・学部を問わず、広範な学問領域に触れる機会を持ちたい人。 ・学問的基礎や応用研究のみでなく、実践力やビジネスセンスなどを修得し起業を目指す人。
保健学研究科	<p>保健学研究科の大学院博士課程前期における教育目標は、保健学分野に関する基本的な素養と問題解決能力を養い、保健学という立場から人間を全人的に捉えてQOLの向上を支援できる専門職者を養成することです。</p> <p>博士課程後期における教育目標は、保健学分野の専門知識および高度な研究能力を修得させ保健医療福祉の現場で活躍できる指導的専門職者・管理者および各学問分野における実践および研究に貢献できる教育研究者を養成することです。このように大学院における教育研究は長期にわたる極めて主体的な活動ですので、それを継続できる高い動機と情熱を持つ人の入学を期待します。</p>
工学研究科	<p>①各分野における基礎学力を有する人</p> <p>②学術的な研究や学際的な活動に意欲を有する人</p> <p>③平和で持続可能な社会の構築や国際的な共同研究・開発などに関心を有する人</p>
生物圏科学研究科	<p>生物圏における多様な生物や諸現象およびフィールド科学に関心があり、次のような意欲と資質をそなえた大学院生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 食料生産とそのための環境保全・修復の分野において、チャレンジ精神が旺盛である。 2) 生物の多様な機能の解明や有効利用に関心が高い。

研究科名	入学者受入方針
	3) 課題についての的確な思考力と解決能力をそなえている。 4) 知の体系に裏打ちされた倫理観をもっている。
医歯薬学総合研究科	医学・歯学・薬学の臨床・基礎の先端研究に取り組みたい人 医歯薬学研究，生命科学研究の基礎を幅広く既存の枠組みを超えて学びたい人 高度先進医療に参加したい人。主体的にものと考え，問題を解決するトレーニングを受けたい人 社会人として医療系でのキャリアアップを図りたい人
国際協力研究科	専門家として国際機関で働くことや国際協力に関する研究にかかわることをめざしている人，また世界の人々との交流に興味ある人を求めています。
法務研究科	実践的理論と判断力を備えた専門職業人（プロフェッショナル）としての法曹を育てるため，柔軟な思考力を持ち，人間と社会への深い関心と理解力を備えた学生を多方面から求めています。

(出典：大学院案内)

資料4-1-①-E 各研究科の入学者受入方針の公表方法

研究科名	公表・周知方法				
	学生募集要項	大学院案内(全学版)	大学院案内(部局別)	ウェブページ	パンフレット
総合科学研究科	○	○	○	○	○
文学研究科	○	○			
教育学研究科	○	○	○	○	○
社会科学研究科	○	○	○	○	○
理学研究科	○	○		○	○
先端物質科学研究科	○	○		○	○
保健学研究科	○	○		○	○
工学研究科	○	○			
生物圏科学研究科	○	○	○	○	
医歯薬学総合研究科	○	○	○	○	
国際協力研究科	○	○			○
法務研究科	○	○		○	○

(出典：大学での集計)

資料4-1-①-F 各研究科の入学者受入方針を記載した書類の配布状況

部局等名	配布先数 (平成20年度)	配布数 (平成20年度)	ウェブサイトアクセス数 (平成20年度末)
教育室	2,733	10,657	
総合科学研究科	298	678	2,272
文学研究科	149	149	
教育学研究科	123	465	未把握
社会科学研究科	830	875	未把握
理学研究科	750	2,730	未把握
先端物質科学研究科	556	2,618	7,122
保健学研究科	200	200	26,862
工学研究科	338	338	
生物圏科学研究科	700	800	7,009
医歯薬学総合研究科	300	200	162,060
国際協力研究科	346	346	
法務研究科	695	1,430	未把握

(出典：大学での集計)

- 参照資料 : 別添資料4-1-①-1 平成21年度(2009)入学者選抜に関する要項
 別添資料4-1-①-2 平成21年度(2009)広島大学学生募集要項
 別添資料4-1-①-3 平成21年度2009A0選抜学生募集要項 総合評価方式
 別添資料4-1-①-4 平成21年度2009A0選抜学生募集要項 対象別評価方式
 別添資料4-1-①-5 平成21年度2009A0選抜学生募集要項 フェニックス方式
 別添資料4-1-①-6 大学院案内
 別添資料1-2-①-3 大学案内「広島大学で何が学べるか」

【分析結果とその根拠理由】

入学者受入方針は、学士課程においては全学共通の受入方針に基づき学部ごとに、大学院課程においては研究科ごとに、それぞれの教育目的に沿って全ての学部・研究科が策定し、入学者受入方針に合致する入学者選抜の方針と併せて、大学案内、学生募集要項、ウェブページ等に掲載するとともに、学部説明会等の機会を活用し、入学志願者や保護者、高校関係者をはじめ社会一般に向けて広く公表し周知している。

以上により、教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜の基本方針等が記載された入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を明確に定め、公表、周知している。

観点 4-2-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実質的に機能しているか。

【観点に係る状況】

本学では、入学者受入方針及びその方針に合致する入学者選抜の方針に沿って、選抜方法や配点、評価判定基準等を定めている。

学士課程の入学者選抜における募集区分と選抜方法は、資料 4-2-①-A 及び資料 4-2-①-B に示すとおりである。一般選抜（前期日程、後期日程）では、大学入試センター試験を課すことによって、高等学校で学ぶべき基礎学力を判定し、個別学力検査では各学部が求めるそれぞれの専門分野で必要とされる学力を判定している。なお、後期日程では、特に学部・学科の特性に応じて、教科・科目試験以外の小論文や面接、実技試験等も取り入れている。

本学は、平成 17 年度まで実施してきた推薦入学、A0 入試、特別選抜及びフェニックス入学制度を一つにまとめて「広島大学 A0 選抜」とし、学部・学科等それぞれの募集単位が、入学者受入方針に従って、小論文、面接、出願書類等を用いて実施している。特に、A0 選抜において志願者の学力を判定することに留意しており、小論文、面接の内容の工夫（総合評価方式Ⅰ型）、大学入試センター試験の利用（総合評価方式Ⅱ型）及びゼミナール（少人数授業）への出席を課す（総合評価方式Ⅲ型）等の取り組みを行っている。現在の実施状況は、資料 4-2-①-C～E に示すとおりである。

大学院課程の入学者選抜は、全ての研究科において、資料 4-2-①-F に示すと通りの募集区分と選抜方法により実施している。一般選抜以外に、それぞれの研究科において、研究科の特性及び入学者受入方針に応じた特別選抜として、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜、フェニックス特別選抜、学部 3 年次学生対象、他分野特別選抜などを実施している。

フェニックス入学制度 …… 生涯学習社会において、中高年の方々が高等教育を受けるための入学制度であり、広島大学では（フェニックス特別選抜） 全国の国立大学に先駆けて、平成 13 年度から導入している。
 学士課程では、平成 18 年度から広島大学 A0 選抜（フェニックス方式）として、整理している。

資料 4-2-①-A 学士課程の入学者選抜（一般選抜、A0 選抜、推薦入学）（平成 21 年度）

学 部	学科・類(系)・コース・専攻	入学定員	募集人員						推薦入学	
			一般選抜		広 島 大 学 A 0 選 抜			推薦 評価方式		フェニックス 方式
			前期 日程	後期 日程	総合評価方式					
		Ⅰ型	Ⅱ型	Ⅲ型						
総合科学部	総合科学科	130	100	18	12			帰国生 若干名	若干名	

学 部	学科・類(系)・コース・専攻		入学 定員	募集人員						推薦 入学			
				一般選抜		広 島 大 学 A O 選 抜			対象別 評価方式		フェニックス 方式		
				前期 日程	後期 日程	総合評価方式							
		I 型	II 型	III 型									
文学部	人文学科		140	90	25			25		若干名			
教育学部 *1	第一類 (学校教育系)	初等教育教員養成 コース	180	132	(112)	32	(28)	10					
		特別支援教育 教員養成コース			(20)							(4)	6
	第二類 (科学文化教育系)	自然系コース	88	55	(17)	14	(4)	6			若干名		
		数理系コース			(14)						(3)	5	若干名
		技術・情報系コース			(10)						(3)	4	若干名
		社会系コース			(14)						(4)	4	若干名
	第三類 (言語文化教育系)	国語文化系コース	84	56	(13)	7	(3)	6			若干名		
		英語文化系コース			(19)						(2)	6	若干名
		日本語教育系コース			(24)						(2)	9	若干名
	第四類 (生涯活動教育系)	健康スポーツ系 コース	88	50	(16)	14	(6)	10			若干名		
		人間生活系コース			(16)						(3)	3	若干名
		音楽文化系コース			(14)						(3)	5	若干名
		造形芸術系コース			(4)						(2)	6	若干名
	第五類 (人間形成課程)	教育学系コース	55	36	(20)	9	(5)	5			若干名		
心理学系コース		(16)			(4)						5	若干名	
計			495	329	76	63	27						
法学部	法 学 科	昼間コース	140	110	30								
		夜間主コース	40	10	5		5		社会人 20	若干名			
経済学部	経 済 学 科	昼間コース	150	110	25		15 (A選抜 13 B選抜 2)						
		夜間主コース	60	20	5		25		社会人 10	若干名			
理学部	数学科		47	26	14	7							
	物理科学科		66	33	18	10		5					
	化学科		59	39	13	7							
	生物科学科		34	27	4	3							
	地球惑星システム学科		24	15	4	5							
	計			230	140	53	32		5				

学 部	学科・類(系)・コース・専攻	入学 定員	募集人員							推薦 入学	
			一般選抜		広 島 大 学 A 0 選 抜			対象別 評価方式	フェニックス 方式		
			前期 日程	後期 日程	総合評価方式						
		I 型	II 型	III 型							
医学部	医学科	110	75	20		10				5	
	保健 学科	看護学専攻	120	46	8		6 〔一般型3 専門型3〕				
		理学療法学専攻		24	4		2				
		作業療法学専攻		24	4		2				
	小計	120	94	16		10					
計	230	169	36		20				5		
歯学部	歯学科	55	35	15		5					
	口腔 健康 科学 学科	口腔保健衛生学専攻	40	15	5						
		口腔保健工学専攻		15	5						
	小計	40	30	10							
計	95	65	25		5						
薬学部	薬学科	38	33	5							
	薬科学科	22	12	5		5					
	計	60	45	10		5					
工学部	第一類 (機械システム工学系)	105	90	10	5						
	第二類 (電気・電子・システム・情報系)	135	112	13	10						
	第三類 (化学・バイオ・プロセス系)	115	89	11	15						
	第四類 (建設・環境系)	135	120	10	5						
	計	490	411	44	35						
生物生産学部	生物生産学科	90	65	10		15 〔A型(専門型)3 B型(理数型)3 C型(一般型)9〕			若干名		
総計		2,350	1,664	362	142	117	30	30		5	

(注) 広島大学 A0 選抜の総合評価方式及び対象別評価方式の社会人選抜の合格者が募集人員に満たない場合、その欠員は、前期日程試験の募集人員に含めます。

*1 教育学部の一般選抜募集人員は、各類型ごとに定めており、表中の()の数は、各コースごとの合格予定者数を示します。

(出典：各募集要項)

資料4-2-①-B 学士課程の入学者選抜（私費外国人留学生選抜、編入学）（平成21年度）

学 部	学科・類(系)・コース	募集人員		
		私費外国人 留学生選抜	3年次編入学	2年次後期 編入学
総合科学部	総合科学科	若干名	若干名	
文学部	人文学科	若干名	10名	
教育学部	第一類(学校教育系)	若干名		
	第二類(科学文化教育系)	若干名	若干名	
	第三類(言語文化教育系)	若干名		
	第四類(生涯活動教育系)	若干名		
	第五類(人間形成基礎系)	若干名		
法学部	法学科(昼間コース)	若干名	10名	
	法学科(夜間主コース)		10名	
経済学部	経済学科(昼間コース)	若干名	推薦 5名 一般 5名	
	経済学科(夜間主コース)		10名	
理学部	数学科	若干名	10名	
	物理科学科	若干名		
	化学科	若干名		
	生物科学科	若干名		
	地球惑星システム学科	若干名		
医学部	医学科	若干名		
	保健学科	若干名	看護学 10名 理学 5名 作業 5名	
歯学部	歯学科	若干名		5名
	口腔健康科学科	若干名		
薬学部	薬学科	若干名		
	薬科学科	若干名		
工学部	第一類(機械システム工学系)	若干名	10名	
	第二類(電気・電子・システム・情報系)	若干名		
	第三類(化学・バイオ・プロセス系)	若干名		
	第四類(建設・環境系)	若干名		
生物生産学部	生物生産学科	若干名	10名	

(出典：各募集要項)

資料4-2-①-C 総合評価方式の選抜方法（平成21年度）

【I型（大学入試センター試験を課さない選抜）】

学部等		募集人員	第1次選考	第2次選考	
総合科学部	総合科学科	12名	出願書類	小論文, 面接	
教育学部	第二類 (科学文化教育系)	数理系コース	5名	出願書類	小論文, 面接(プレゼン含む)
		技術・情報系コース	4名		
		社会系コース	4名		
	第三類 (言語文化教育系)	国語文化系コース	6名		
		英語文化系コース	6名		
		日本語教育系コース	9名		
	第四類 (生涯活動教育系)	人間生活系コース	3名		
		健康スポーツ系コース	10名		
		音楽文化系コース	5名		
	第五類 (人間形成基礎系)	造形芸術系コース	6名		
教育学系コース		5名	小論文, 面接(プレゼン含む), 実技		
				小論文, 面接(プレゼン含む)	

学部等		募集人員	第1次選考	第2次選考
理学部	数学科	7名	出願書類	筆記試験, 面接 小論文, 面接 面接 小論文, 面接
	物理科学科	10名		
	化学科	7名		
	生物科学科	3名		
	地球惑星システム学科	5名		
工学部	第一類(機械システム工学系)	5名	出願書類	小論文, 面接
	第二類(電気・電子・システム・情報系)	10名		
	第三類(化学・バイオ・プロセス系)	15名		
	第四類(建設・環境系)	5名		

【Ⅱ型 (大学入試センター試験を課す選抜)】

学部等		募集人員	第1次選考	第2次選考		
教育学部	第一類 (学校教育系)	初等教育教員養成コース	10名	出願書類, 課題レポート 出願書類	小論文, 面接(プレゼン含む)	
		特別支援教育教員養成コース	6名			
	第二類 (科学文化教育系)	自然系コース	6名			
	第五類 (人間形成基礎系)	心理学系コース	5名			
法学部	法学科	夜間主コース	5名	小論文, 面接		
経済学部	経済学科	昼間コース	A選抜 13名 B選抜 2名	出願書類	小論文, 面接	
		夜間主コース	25名			
医学部	医学科		10名	出願書類, 小論文	面接	
	保健学科	看護学専攻	一般型	3名	出願書類	小論文, 面接
			専門型	3名		
		理学療法専攻	2名			
		作業療法専攻	2名			
歯学部	歯学科		5名	出願書類, 小論文	面接	
薬学部	薬科学科		5名	出願書類	筆記試験, 面接	
生物生産学部	生物生産学科	A型(専門型)	3名	出願書類	セミナー受講による レポート提出, 面接	
		B型(数理型)	3名			
		C型(一般型)	9名			

【Ⅲ型 (ゼミナール(授業)への出席を課す選抜(大学入試センター試験を課さない))】

学部等	募集人員	第1次選考	第2次選考
文学部 人文学科	25名	出願書類, 第1回ゼミナールレポート	第2回ゼミナール(演習形式), 面接
理学部 物理科学科	5名	出願書類, 第1回ゼミナール, 課題レポート	第2回ゼミナール(講義, 演習, 実習, 討論), 面接

(出典: 各募集要項)

資料4-2-①-D 対象別評価方式の選抜方法(平成21年度)

【帰国生選抜】

学部等	募集人員	選抜方法
総合科学部 総合科学科	若干名	小論文, 面接, 出願書類

【社会人選抜】

学部等	募集人員	選抜方法
法学部 法学科	夜間主コース 20名	小論文, 面接
経済学部 経済学科	夜間主コース 10名	小論文, 面接

(出典: 各募集要項)

資料4-2-①-E フェニックス方式の選抜方法（平成21年度）

学部等		募集人員	選抜方法	
総合科学部	総合科学科	若干名	小論文, 面接, 志望理由書	
文学部	人文学科	若干名	面接, 志望理由書	
教育学部	第二類 (科学文化教育系)	自然系コース	各コース 若干名	小論文, 面接, 志望理由書
		数理系コース		
		技術・情報系コース		
		社会系コース		
	第三類 (言語文化教育系)	国語文化系コース		
		英語文化系コース		
		日本語教育系コース		
	第四類 (生涯活動教育系)	健康スポーツ系コース		
		人間生活系コース		
		音楽文化系コース		
		造形芸術系コース		
	第五類 (人間形成基礎系)	教育学系コース		
心理学系コース				
法学部	法学科	若干名	小論文, 面接	
経済学部	経済学科	若干名	小論文, 面接	
生物生産学部	生物生産学科	若干名	面接, 志望理由書	

(出典：各募集要項)

資料4-2-①-F 大学院課程の入学者選抜（平成21年度）

【修士課程】

研究科名	一般選抜	社会人 特別選抜	外国人留学生 特別選抜
医歯薬学総合研究科	○	○	○

【博士課程前期】

研究科名	一般選抜	推薦入学	社会人 特別選抜	外国人留学生 特別選抜	フェニックス 特別選抜	その他
総合科学研究科	○	○	○	○	○	
文学研究科	○		○	○	○	
教育学研究科	○		○	○	○	
社会科学研究科	○	○	○	○	○	○ 研究者養成選抜
理学研究科	○	○	○		○	○ 学部3年次学生対象
先端物質科学研究科	○	○		○	○	○ 学部3年次学生対象
保健学研究科	○		○	○	○	○ 他分野特別選抜
工学研究科	○	○	○	○		○ 学部3年次学生対象
生物圏科学研究科	○	○	○			
医歯薬学総合研究科	○		○	○	○	○ 他分野特別選抜
国際協力研究科	○	○	○	○	○	

【博士課程後期】

研究科名	一般選抜	社会人 特別選抜	外国人留学生 特別選抜	フェニックス 特別選抜	その他
総合科学研究科	○	○	○	○	
文学研究科	○	○		○	
教育学研究科	○	○	○		
社会科学研究科	○			○	
理学研究科	○	○	○		
先端物質科学研究科	○	○	○		
保健学研究科	○	○	○	○	
工学研究科	○	○	○		
生物圏科学研究科	○	○			
医歯薬学総合研究科	○	○	○	○	

研究科名	一般選抜	社会人 特別選抜	外国人留学生 特別選抜	フェニックス 特別選抜	その他
国際協力研究科	○	○	○	○	

【博士課程】

研究科名	一般選抜	社会人 特別選抜	外国人留学生 特別選抜	フェニックス 特別選抜
医歯薬学総合研究科	○	○	○	○

【専門職学位課程】

研究科名	一般選抜	A0 入試
法務研究科	○	○

(出典：各募集要項)

【分析結果とその根拠理由】

本学では、入学者受入方針及びその方針に合致する入学者選抜の方針に沿って、選抜方法や配点、評価判定基準等を定めている。選抜方法は、それぞれの学部や研究科の特色に即したものを積極的に取り入れるとともに、多様な選抜方法の間における適切なバランスを確保しており、学生受け入れ方法が全体として十分に機能している。

特徴としては、学士課程においては広島大学固有の「広島大学 A0 選抜」、大学院課程において他分野特別選抜など多様な選抜方法を取り入れていることである。

以上により、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法を採用しており、実質的に機能しているといえる。

観点 4-2-②： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）において、留学生、社会人、編入学生の受入等に関する基本方針を示している場合には、これに応じた適切な対応が講じられているか。

一般選抜と区分していないため、該当なし

観点 4-2-③： 実際の入学者選抜が適切な実施体制により、公正に実施されているか。

【観点到に係る状況】

入学者選抜方法の全学的検討及び調整、入学者選抜試験実施体制の立案は、入学センター長を議長とし、副理事（入試改革担当）及び各部局の代表者等で構成する入学センター会議が行っている。ここで検討されたものは、理事・副学長（教育担当）が所掌する教育室運営会議において審議し、特に重要と認められる事項は、教育研究評議会の議を経て決定している。

入学試験問題の作成は、試験実施教科・科目に関する教育研究経験を有する教員が担当しており、入学試験問題作成等要領を作成し、適正な実施に努めている。また、試験監督方法等は入学試験事務実施要領として統一的に定めており、公正な試験が実施できるようにしている。

試験当日は、入学試験事務実施要領に基づき、学長を責任者とする試験実施本部を設置し、各学部では学部長を責任者とする試験場本部を設置し、公平・公正で、かつミスが生じない体制で実施している（資料 4-2-③-A）。

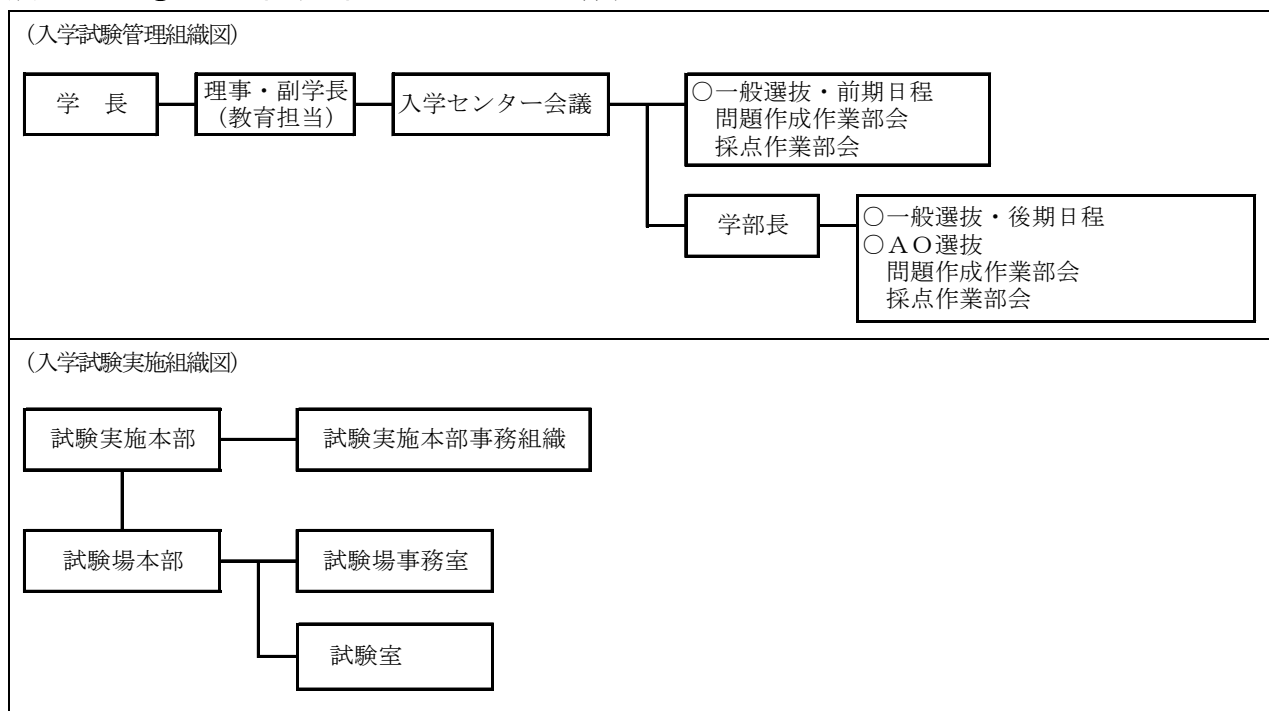
また、入学試験合否判定は、各学部の教授会が行う。

入学者選抜の透明性の確保という観点から、情報公開に関しては、基本データ（募集人員、志願者数、受験者数、合格者数、最高点、最低点、平均点）の公開の他に、受験生の求めに応じて本人の得点、順位を本人に対して開示している。

各学部での実施体制は、資料4-2-③-Bに示すとおりである。

各研究科の入学者選抜は、資料4-2-③-Cに示すとおり、各研究科等に入試実施委員会を設置し、学部と同様の実施体制の下で入学者選抜を実施し、公正な実施を図っている。

資料4-2-③-A 学部入学者選抜実施方法の体制図



(出典：大学で作成)

資料4-2-③-B 各学部における入試の実施体制と実施内容等

学 部	実施組織	実施内容	公平性の担保
総合科学部	○入学試験委員会	○募集要項の作成：総合科学部入学試験委員会→教授会 ○出題・面接・採点委員等の選定：総合科学部入学試験委員会・学部長	○問題作成・採点、面接委員、試験監督者等は、すべて複数教員で実施
文学部	○教務委員会 委員長：学部長	○教務委員会で募集要項の作成、出題、面接委員の選定、採点等は等原案を作成し、教授会で承認を得ている。	○答案採点は実施要領（採点基準）に基づき、複数教員の合議で決定している。（面接含む。）
教育学部	○入試部会	○募集要項の作成、出題、面接委員の選定、採点等は入試部会、代議員会、学部長、問題作成委員長で作成している。	○複数教員による採点については、実施計画に記載している。 ○試験官の配置については、大学入試センター試験監督要領に準ずるとともに、入学試験監督者の割り振りに関する申合せに基づき行っている。
法学部	○入学試験委員会 委員長：学部長 入学試験委員：教授1名	○募集要項の作成、出題、面接委員の選定、採点等は法学部教授会で承認を得て、入学試験委員及び学生支援グループの管理のもと実施している。	○採点：試験科目ごとに2～3名の出題委員が採点し、相互にチェックしている。 ○監督者：1試験室に最低2名の監督者を配置している。なお、50名を超

学 部	実施組織	実施内容	公平性の担保
			える場合は、志願者 25 名あたり 1 名の監督者を配置している。 (例:志願者 100 名では 4 名の監督者)
経済学部	○入学試験委員会 学部長, 夜間主コース主任, 全学入学センター会議委員, 経営・情報学科目 1 名	○募集要項の作成, 面接委員の選定は, 入試委員会及び代議員会で承認を得ている。出題委員は学部長が選定している。採点は入試委員立ち会いのもと実施している。	○採点: 試験科目ごとに 2~3 名の出題委員が採点し, 相互にチェックしている。 ○監督者: 1 試験室に最低 2 名の監督者を配置している。なお, 50 名を超える場合は, 志願者 25 名あたり 1 名の監督者を配置している。(志願者 100 名では 4 名の監督者)
理学部	○入学者選抜方法検討委員会	○募集要項の作成: ①入学者選抜方法検討委員会で原案作成 ②学部代議員会で承認 ○出題・面接・採点委員の選定: 各学科長が選出し, 学部長が承認	○試験実施: 各試験室は複数の監督者・監督補助者を配置 ○採点: 複数の委員により相互に採点を行う。
医学部	○医学部長室会議	○募集要項の作成: 医学部長室会議 出題: 入学試験チェック委員, 面接委員の選定: 入学試験担当教員 採点: 入学試験判定打合せ会, 教授会	○採点及び面接: 複数 (3 名以上) 教員で担当 ○試験監督者: 複数 (2 名以上) 教員を配置
歯学部	○教務委員会, 学生委員会 (平成 20 年 10 月から教務・入試WGに改称)	○募集要項の作成, 試験実施計画については教務委員会と学生委員会で原案を作成し, 学部長室会議を経て教授会で承認を得ている。 ○出題, 面接委員は学部長が選定している。出題・面接等は学部長が指名した委員長が責任者となって実施し, 学部長・副学部長・学科長等が出題や実施状況を点検確認している。	○出題・採点は 3 名以上, 面接は 5 名以上を選定し公正な試験が実施できるようにしている。
薬学部	○学部長, 副学部長, 学科長, 学部長補佐 (入試担当)	○募集要項の作成, 出題, 面接委員の選定, 採点等は教授会承認するとともに, 入学試験担当者等を選出している。	○複数の教員で問題を作成し, 各試験室も複数の教員を試験監督者として配置している。
工学部	○入学試験委員会	○募集要項: 各級の意向を踏まえて学部入試委員会で検討後, 学部代議員会へ付議・了承している。 ○出題, 面接委員の選定, 採点: 事務担当者が学部長決裁後に各級長へ依頼している。	○各級において問題作成委員, 面接実施委員等を選出し, 複数の教員により問題作成, 内容確認, および試験の実施にあたっている。
生物生産学部	○入試委員会	○募集要項の作成, 出題, 面接委員の選定, 採点等は学部入試委員会で了承, 学部教授会で承認している。	○第 3 年次編入学試験: 採点 (13 名), 試験官配置 (9 名 (警備・誘導を含む)) ○A0 入試: 採点 (6 名), 試験官配置 (9 名 (警備・誘導を含む))

(出典: 大学での集計)

資料 4-2-③-C 各研究科における入試の実施体制と実施内容等

研究科名	実施組織	実施内容	公平性の担保
総合科学研究科	○入学試験委員会	○募集要項の作成: 大学院総合科学研究科入学試験委員会→教授会	○問題作成・採点, 面接委員, 試験監督者等は, すべて複数教員で実施

研究科名	実施組織	実施内容	公平性の担保
		○出題・面接・採点委員等の選定： 大学院総合科学研究科入学試験委員会・研究科長	
文学研究科	○教務委員会 委員長：研究科長	○募集要項の作成，出題，面接委員の選定，採点等は教務委員会で原案を作成し，教授会で承認を得ている。	○答案採点は実施要領（採点基準）に基づき，複数教員の合議で決定している（面接含む）。
教育学研究科	○入試部会	○募集要項の作成，出題，面接委員の選定，採点等は入試部会，代議員会，研究科長，問題作成委員長で作成している。	○複数教員による採点については，実施計画に記載。 ○試験官の配置については「大学入試センター試験監督要領」に準じて行い，割り振りについては教育学研究科内規・申合せ「入学試験監督者の割り振りに関する申合せ」に基づき行っている。
社会科学研究科	○入試教務委員会 （法政システム専攻） ○入試教務委員会 （社会経済システム専攻） ○入試委員会 （マネジメント専攻）	○募集要項は各専攻教員会報告，研究科代議員会の承認を得て作成し，各専攻の入試教務委員会・入試委員会が実施。合否判定は各専攻教員会報告，各専攻会議了承，研究科代議員会の承認を得る。	○（法政システム専攻） ・採点：試験科目ごとに2名の出題委員が採点し，相互チェックを行う。 ・試験官の配置：1試験室につき2～3名（志願者数による）を配置。 ・口述試験：志望専攻科目の教員を含めて2名以上の教員で実施し，判定。 ○（社会経済システム専攻） ・試験監督者：2名配置 ・口述試験：専攻長，指導予定教員，入試教務委員，問題採点委員等で行う。 ・採点：ほとんど複数で行う。 ○（マネジメント専攻） ・論文試験監督：3名 ・論文試験採点：6名 ・面接・口述試験官：3名
理学研究科	○大学院委員会	○募集要項の作成 ①大学院委員会で原案作成 ②研究科代議員会で承認 ○出題・面接・採点委員の選定： 各専攻長が選出し，研究科長が承認	○試験実施：各試験室は複数の監督者・監督補助者を配置 ○採点：複数の委員により相互に採点を行う。
先端物質科学研究科	○運営企画会議	○募集要項は，各専攻会議及び運営企画会議で企画立案し，代議員会承認の上，作成している。 ○出題，面接，採点委員の選定は，専攻長が行う。出題に際しては，問題作成者，複数の問題確認者，専攻長又は問題責任者，副研究科長（教育担当）が所定のチェックシートにより点検して進めている。採点に際しても，問題作成者，問題確認者が行い，専攻長が点検・承認している。	○採点は，問題作成者及び問題確認者がそれぞれ採点・確認し，専攻長が点検・承認している。 ○試験官は，専攻長が選出し，1試験室に複数人で監督業務を実施している（支援室からも応援要員を出している）。
保健学研究科	○大学院教育委員会	○募集要項の作成，出題，面接委員の選定，採点等は研究科教授会で作成している。	○3人の教員が毎年交替で問題を作成。筆記試験中は2人の教員が試験監督をする。面接試験は5人ないし6人が担当し実施している。
工学研究科	○教務委員会	○募集要項：各専攻の意向を踏まえて大学院工学研究科教務委員会で検討後に研究科代議員会へ付議・了承している。 ○出題，面接委員の選定，採点は，事	○問題作成・採点委員長を定め，複数の委員構成によって，問題内容の事前チェックや採点ミス等が生じない体制で実施している。

研究科名	実施組織	実施内容	公平性の担保
		務担当者が研究科長決裁後に専攻長へ依頼している。	
生物圏科学研究科	○学務委員会	○募集要項の作成、出題、面接委員の選定、採点等は学務委員会です承、研究科代議員会で承認している。	○博士課程前期： 5名の面接委員で実施 ○博士課程後期： 3名以上の面接委員で実施
医歯薬学総合研究科	○教育委員会、教授会	○募集要項の作成、出題、面接委員の選定、採点等は教育委員会で作成し、教授会で承認している。	○口述試験： 複数の教員で面接を実施 ○筆記試験： 複数の教員で採点を実施している。
国際協力研究科	○入学試験実施総括責任者（研究科長）、入学試験実施委員会（学務委員会）	○募集要項の作成、出題、面接委員の選定、採点等は入学試験実施委員会で作成し、教授会で承認している。	○試験問題作成者が採点し、とりまとめ責任者がその確認をする。 ○口述試験では各コースに担当する全教員で実施する。
法務研究科	○本研究科では、2名の教員を入試委員に任命して、決定を要する事項については、法務研究科長、副研究科長及び各講座主任によって構成される研究科長室会議において検討して原案を作成し、それを教授会に諮り決定している。 平成20年度からは入試業務の充実を図るため入試委員を1名増員し3名体制で実施している。	○2名の教員を入試委員に任命し通常の入試業務を行っている。決定を要する事項については、左記の組織の下で決定する。入学者選抜の実施については、問題作成から試験監督・採点にいたるまで、教員全員で分担して行い、合否の判定についても、教授会で慎重に審議した上で決定するなど、責任ある体制を採っている。	○複数教員による面接・採点を実施している。

(出典：大学での集計)

【分析結果とその根拠理由】

学士課程の入学者選抜は、入学センター会議の下で一元的に企画・実施している。また、大学院課程の入学者選抜は、各研究科の入試委員会により、公正な実施を確保している。

以上により、実際の入学者選抜を適切な実施体制により、公正に実施している。

観点4-2-④： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。

【観点到に係る状況】

学部の入学者選抜に関しては、平成20年度に資料4-2-④-Aに示すとおり、入学者成績追跡調査委員会において追跡調査を行い、報告書を作成している。同様の調査は、平成18年度から実施している。

これらの分析結果を踏まえ、各学部の入学者受入方針に基づいて、A0選抜の一層の充実（A0選抜の型の変更を含む（資料4-2-④-B））や後期日程の見直しなどの改善を行っている。なお、入学者選抜に係る主な調査結果、データについては、全国大学入学者選抜研究連絡協議会（平成17年度まで国立大学入学者選抜研究連絡協議会）等で発表している。

また、全学の今後の入学者選抜の基本方針については、検討委員会を設けて検討した。その結果、一般選抜とA0選抜という本学の入学者選抜の基本的な枠組みを今後も堅持するとともに、後期日程については、資料4-2-④-Bに示すように、平成22年度以降、全学での統一的な扱いを止め、それぞれの学部の入学者受入方針を踏ま

えた判断に委ねることとした。

大学院課程に関しては、資料4-2-④-Cに示すように、各研究科で検討委員会等により、入試成績、単位修得状況、博士（後期）課程への進学状況、就職状況、課程博士授与状況等との関連を調査・研究し、改善につなげている。

資料4-2-④-A 平成20年度入学者追跡調査

対象者	平成 18, 19, 20 年度 一般選抜（前期日程・後期日程）及び A0 選抜入学者
調査に用いたデータ	① 入試成績 ② 平成 20 年度前期の成績（GPA を算出） ③ 平成 18 年度前期・後期，平成 19 年度前期の TOEIC 試験の得点
基礎データ資料	① 平成 18 年度入学者の平成 20 年度前期 GPA ② 平成 18 年度入学者の平成 20 年度前期 GPA と入試成績との関係 ③ 平成 18 年度入学者の GPA 推移 ④ 平成 19 年度入学者の平成 20 年度前期 GPA ⑤ 平成 20 年度入学者の平成 20 年度前期 GPA

（出典：大学での集計）

資料4-2-④-B 各学部の入学者選抜方式の変更計画

年 度	変更計画	対象学部
平成 18 年度以降	A0 選抜 対象別評価方式帰国子女選抜（20 年度から「帰国生選抜」に変更）及びフェニックス方式の導入	総合科学部
	A0 選抜 総合評価方式Ⅲ型及びフェニックス方式の導入	文学部
	A0 選抜 総合評価方式Ⅰ型，Ⅱ型及びフェニックス方式の導入	教育学部
	A0 選抜 総合評価方式Ⅱ型，対象別評価方式社会人選抜及びフェニックス方式の導入	法学部
	A0 選抜 総合評価方式Ⅰ型，対象別評価方式社会人選抜，中国引揚者等子女選抜及びフェニックス方式の導入	経済学部
	A0 選抜 総合評価方式Ⅰ型及びⅢ型の導入	理学部
	A0 選抜 総合評価方式Ⅱ型の導入	医学部
	A0 選抜 総合評価方式Ⅱ型の導入	歯学部
	A0 選抜 総合評価方式Ⅰ型の導入	工学部
	A0 選抜 総合評価方式Ⅱ型及びフェニックス方式の導入	生物生産学部
平成 19 年度以降	A0 選抜 総合評価方式Ⅰ型を導入	総合科学部
	A0 選抜 総合評価方式Ⅱ型を導入	薬学部
	A0 選抜 対象別評価方式中国引揚者等子女選抜の廃止	経済学部
平成 20 年度以降	A0 選抜 総合評価方式Ⅰ型からⅡ型に変更	経済学部
平成 21 年度以降	推薦入試（ふるさと枠）の導入	医学部
平成 22 年度以降	後期日程を廃止し，その募集人員を A0 選抜等に振替（全 5 類のうち 1 類）	教育学部
	後期日程を廃止し，その募集人員を A0 選抜等に振替（全 5 学科のうち 1 学科）	理学部
	後期日程を廃止し，その募集人員を A0 選抜等に振替（全 2 学科のうち 1 学科）	医学部
	後期日程を廃止し，その募集人員を A0 選抜等に振替（全 2 学科のうち 1 学科）	歯学部
	現在 1 学科で行っている A0 選抜を全 2 学科に拡大	歯学部

注) A0 選抜 総合評価方式Ⅰ型：大学入試センター試験を課さない選抜
 A0 選抜 総合評価方式Ⅱ型：大学入試センター試験を課す選抜
 A0 選抜 総合評価方式Ⅲ型：ゼミナール（授業）への出席を課す選抜

（出典：大学での集計）

資料4-2-④-C 各研究科における入試方法等に関する検討とそれに基づいた改善事例

研究科名	検 討 状 況 及 び 改 善 事 例
総合科学研究科	入学試験委員会において、アドミッション・ポリシーに沿った入学者の選抜方法の具体的な学力検査内容等の改善について検討している。
文学研究科	年度毎の志願者・入学者状況を基に、入学定員充足のための方策や入試方法の改善等について、教務委員会等で検討している。
教育学研究科	入学者の修了年限内修了率を調査し、それが高い水準を維持していることを確認することにより、受け入れた学生がアドミッション・ポリシーに沿っているかを検証している。その結果、学生

研究科名	検討状況及び改善事例
	の受け入れはアドミッション・ポリシーに沿っていると判断でき、入学者選抜の改善は当面不要と判断している。
社会科学研究科	法政システム専攻では、各年度毎の入学状況の分析を基に、入試方法の改善及び入学定員充足のための方策等について、入試教務委員会等で検討している。 社会経済システム専攻では、入試教務委員会でアドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが実際に行われたかどうかの検証を行い、さらに入学定員充足のための方策の検討を行うなど改善の取組を行っている。 マネジメント専攻では、学生の受入に関する評価・検証について、組織倫理学における共同レポートや修士論文の完成度によって判断している。結果のフィードバックについては、適切な評価・検証を行っている。
理学研究科	入学者選抜の検証は、選抜方法・選考基準が専攻分野により異なることから各専攻で行っており、そこでの意見や提案は、研究科の大学院委員会等で検討している。
先端物質科学研究科	各募集要項の作成時に、運営企画会議において受験科目の見直しなどを行い、アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜の改善に取り組んでいる。
保健学研究科	学生の受入に対する検証は、必要に応じて研究科教育委員会で検討を行い、改善が必要な場合は教授会で審議することとなる。また、入学後の研究・進路指導上で指導教員との意見の齟齬を防止するため、事前の面談に重点を置いている。
工学研究科	各専攻での試験結果と選考プロセスを合格者判定会議で説明した上で審議を行い、最終合格者を決定しているが、改善などが必要な場合には、大学院教務委員会等で改善について検討できる体制を整え、試験科目の見直し、特別選抜（推薦入学、外国人特別）導入等を行っている。
生物圏科学研究科	学務委員会で受験結果と入学後の追跡調査を実施し、研究科教育改革推進委員会で修了生にアンケートを実施し、最終的に大学院教育改革支援プログラムとして申請して平成21年度から実施する入試から改革するようにした。
医歯薬学総合研究科	学生は、入学後、1年次4月末までに履修計画を、修了予定前年次前期開始1週間以内に研究進捗状況をまとめて提出する。これをもとに、取得しようとする学位の種類に沿った研究教育が進んでいるかどうか研究指導グループが検証を行っている。現在のところ、研究科として入学者選抜方法を改善する必要があるような不都合は生じていないが、必要があれば研究科教育委員会、教授会に諮り改善するシステムは整っている。
国際協力研究科	学務委員会を中心に受験者のニーズと一致しているかを検討し、入試の改善に努めて受験者に対する広報等について検証・改善している。
法務研究科	毎年、入学者のバックグラウンドに関する統計を作成することにより、本研究科が目標とする非法学部出身者・社会人の入学割合（全体の30%以上）の達成を確認している。

(出典：大学での集計)

【分析結果とその根拠理由】

学士課程と大学院課程のいずれにおいても、各種の入学者選抜方法について、入学者受入方針を踏まえて、入学後の成績等の調査研究を行い、入試方法の改善の判断材料に活用している。

以上により、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組を行っており、その結果を入学者選抜の改善に役立てている。

観点4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

【観点到に係る状況】

学士課程の入学者選抜に関する過去5年間の状況は、別紙資料（平均入学定員充足率計算表（広島大学））に示すとおりである。入学定員に対する充足率（入学者数／入学定員）は学部・学科別に見ると103%～117%で、100%を割る学部・学科はない。

大学院課程の入学者選抜に関する過去5年間の状況は、別紙資料（平均入学定員充足率計算表（広島大学））に

示すとおりである。

修士課程は、入学者数が入学定員を大きく下回る傾向が続いていたが、平成20年度以降改善している。

博士課程前期は、先端物質科学研究科、保健学研究科、工学研究科において、入学定員を大きく上回る傾向があるが、その他の研究科では、適正な入学者数となっている。

博士課程後期は、平成18年度に新設された総合科学研究科及び保健学研究科において、入学定員を大きく上回る傾向があり、理学研究科、工学研究科、医歯薬学総合研究科及び国際協力研究科において、入学定員を大きく下回る傾向があるが、その他の研究科では、適正な入学者数となっている。

博士課程、専門職学位課程は、適正な入学者数を維持している。

専攻科は、入学定員を大きく下回る傾向がある。

これまでに、入学定員を大きく上回った場合においては、合否判定基準などの評価方法等の見直し、入学辞退者の予想をできるだけ正確に行う、一般選抜学生募集の回数を減らすなどの取組を実施し、適正化を図った。

また、下回った場合においては、学生募集面での工夫（10月入学の募集の拡大、広報活動の徹底、社会人・留学生などの募集の拡大）、大学院課程学生への経済支援内容の広報などの取組を実施し、適正化を図った（別添資料4-3-①-1）。

参照資料	別紙資料	平均入学定員充足率計算表（広島大学）
	別添資料4-3-①-1	定員を上(下)回った場合に改善を図った取組事例

【分析結果とその根拠理由】

学士課程の入学者数は、適正である。

大学院課程の入学者数は、医学・歯学系の博士課程及び専門職学位課程は適正であるが、修士課程・博士課程前期では一部で入学定員を大きく上回る傾向があり、博士課程後期では入学定員を大きく上回る研究科と大きく下回る研究科、適正な研究科と3つに分類される。

これまでに、入学定員を大きく上回った場合や下回った場合には、種々の改善取組を実施してきているが、博士課程前期及び博士課程後期における入学定員の適正化方策について更に検討する予定である。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 学士課程においては全学共通の受入方針に基づき学部ごとに、大学院課程においては研究科ごとに、全ての学部・研究科において入学者受入方針を定め、大学案内、学生募集要項、ウェブページ等に掲載して公表・周知するとともに、大学が一体となって入試広報活動に努めており、入試実施体制も整備している。
- 学士課程においては広島大学固有の「広島大学A0選抜」、大学院課程において他分野特別選抜など多様な入試制度を採用し、多様な学習歴を持つ学生を幅広く受け入れている。

【改善を要する点】

- 大学院課程では、入学者数が入学定員を上回る研究科や下回る研究科が存在し、種々の改善取組を実施してきているが、本学の使命等を踏まえ、さらに、入学定員と入学者数の関係の適正化方策を検討する。

(3) 基準4の自己評価の概要

入学者受入方針は、学士課程においては全学共通の受入方針に基づき学部ごとに、大学院課程においては研究科ごとに、それぞれの教育目的に沿って全ての学部・研究科が策定し、入学者受入方針に合致する入学者選抜の方針と併せて、大学案内、学生募集要項、ウェブページ等に掲載するとともに、学部説明会等の機会を活用し、入学志願者や保護者、高校関係者をはじめ社会一般に向けて広く公表するとともに学内にも周知している。

入学者受入方針及びその方針に合致する入学者選抜の方針に沿って、選抜方法や配点、評価判定基準等を定めている。選抜方法は、それぞれの学部や研究科の特色に即したものを積極的に取り入れるとともに、学士課程における広島大学固有の「広島大学A0選抜」、大学院課程における他分野特別選抜など多様な選抜方法の間における適切なバランスを確保しており、学生受入方法が全体として十分に機能している。

実施体制に関しては、学士課程については入学センター会議の下で全学的・一元的に企画・実施しており、大学院課程については各研究科の入試委員会等により、公正な実施を確保している。

学士課程と大学院課程のいずれにおいても、各種の入学者選抜方法について、入学者受入方針を踏まえて入学後の成績等の調査研究を行い、入試方法の改善の判断材料に活用している。

実入学者数について、入学定員と比較して、学士課程の入学者数は適正である。大学院課程の入学者数は、医学・歯学系の博士課程及び専門職学位課程は適正であるが、修士課程・博士課程前期では、一部で入学定員を大きく上回る傾向があり、博士課程後期では入学定員を大きく上回る研究科、大きく下回る研究科、適正な研究科と3つに分類される。

これまでに、入学定員を大きく上回った場合や下回った場合には、種々の改善取組を実施してきているが、博士課程前期及び博士課程後期における入学定員の適正化方策について、本学の使命等を踏まえ、さらに検討する予定である。